

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和8年6月16日（火）

2 確認箇所

- ・伐採木一時保管エリアH（図1）
- ・K4タンクエリア（測定・確認用タンク群）（図1）

3 確認項目

- （1）伐採木一時保管エリアHの状況
- （2）ALPS処理水放出停止に係るK4タンクエリア及び移送ルートの状況

4 確認結果の概要

（1）伐採木一時保管エリアHの状況

東京電力では、東日本大震災後に福島第一原子力発電所構内の敷地造成等により発生した伐採木について、構内の伐採木一時保管エリアで保管しており、増設雑固体廃棄物焼却設備の設置以降は、焼却処理に向けたチップ化が進められている。

今回、伐採木一時保管エリアH（以下「エリアH」という。）について、東側及び西側エリアの状況を確認した。（前回確認：令和8年2月5日）

ア 東側エリア

- ・エリア北側では、伐採木は保管されておらず、空いたスペースにおいて、瓦礫類保管エリアから搬入された廃棄物の分別、破碎及び1m³コンテナへの収納作業が行われていた。（写真1）
- ・エリア中央においても、伐採木は保管されておらず、溶融金属用と記載された6m³コンテナが3段積で保管されていた。（写真2）
- ・エリア南側では、伐採木や小割りされた枝、ベニヤ板等が保管されており、破碎機による破碎やバックホウ等を用いた分別、コンテナへの収納作業が行われていた。（写真3）
- ・各エリアは単管パイプ等で区画されており、火災対策のため消火用タンク及び消火器が設置されていた。

イ 西側エリア

- ・伐採木の保管はされておらず、碎石敷による整地がなされており、破碎済の木くずなどを収納した1m³コンテナが、2段積み又は4段積みで整理された状態で保管されていた。（写真4）
- ・これらは、現在、焼却再開に向け準備が進められている増設雑固体廃棄物焼却設備において焼却処理が行われる予定となっている。

(2) ALPS処理水放出停止に係るK4タンクエリア及び移送ルート

東京電力では、本年度2回目(累計20回目)となる多核種除去設備等処理水(以下「ALPS処理水」という。)の海洋放出を6月1日から開始している。

今回、ALPS処理水の海洋放出に係るK4タンクエリア及び移送ルートの状況を確認した。なお、現地確認では、令和8年6月10日において発生した、「サンプルタンクB群移送工程異常」の警報発生に伴う、海洋放出の自動停止に係る事案も踏まえて実施した。

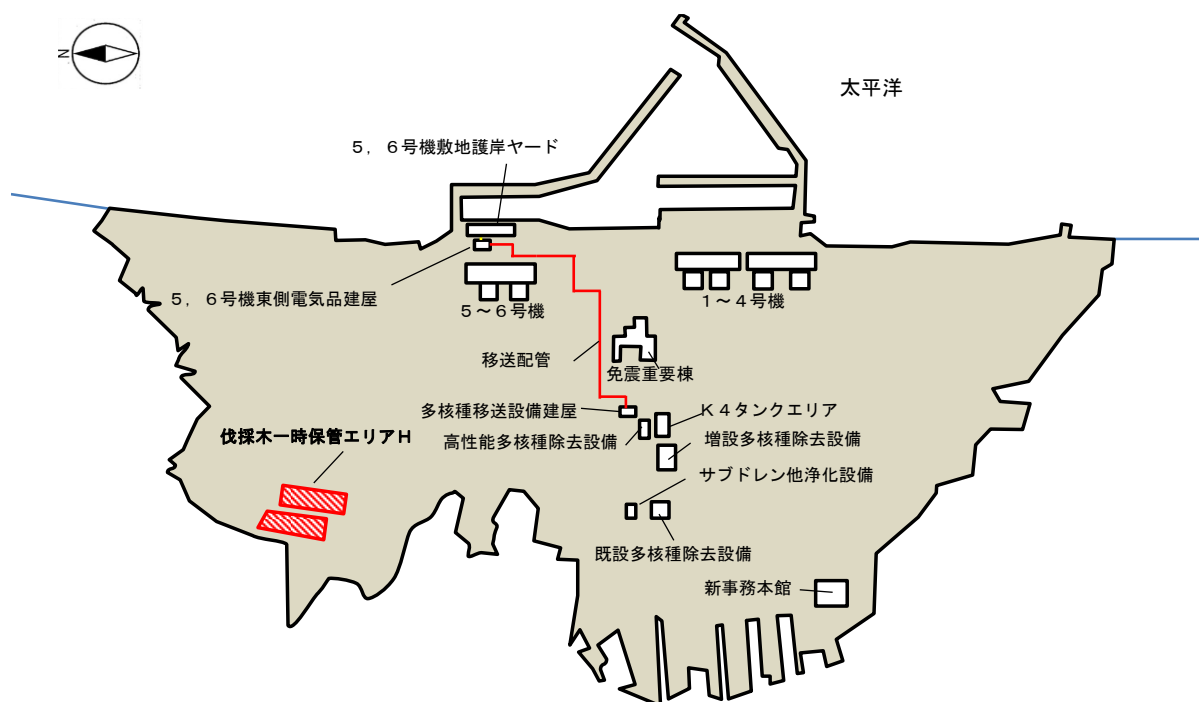
○2026年度第2回ALPS処理水海洋放出の概要

放出対象：ALPS処理水(測定・確認用サンプルタンクB群)

予定放出量：約7,800m³

予定期間：令和8年6月1日(月)～同年6月19日(金)

- ・前回(6月11日)の現地調査において確認していたB群タンク払い出し弁は正常に動作しており、タンクエリア内及びその周辺における処理水の漏えい等はなかった。(写真5)
- ・また、当該タンクエリアから海側に向かって敷設されている移送配管やポンプ、弁等について、移送ルートに沿って順次確認を行ったが、漏えい等の異常は確認されなかった。(写真6)



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真 1－1) 東エリア北側の状況①
(コンテナの保管状況)



(写真 1－2) 東エリア北側の状況②
(瓦礫類の選別作業)



(写真 2－1) 東エリア中央部のコンテナの保管状況①



(写真 2－2) 東エリア中央部のコンテナの保管状況②



(写真 3－1) 東エリア南側における木くず類の選別状況①



(写真 3－2) 東エリア南側における木くず類の選別状況②



(写真 4－1) 西エリアの状況① (選別された木くず類の保管①)



(写真 4－2) 西エリアの状況② (選別された木くず類の保管②)



(写真 5－1) A L P S 処理水の移送ルート確認状況① (交換済の払い出し弁)



(写真 5－2) A L P S 処理水の移送ルート確認状況② (交換済の払い出し弁は開放状態であった。)



(写真 6－1) A L P S 処理水の移送ルート確認状況③ (エルボウ部)



(写真 6－2) A L P S 処理水の移送ルート確認状況④ (道路を横断し、グレーチングを立ち上げる部分)



(写真 6－3) A L P S 処理水の移送ルート確認状況⑤ (5号機脇の斜面から海側へ)



(写真 6－4) A L P S 処理水の移送ルート確認状況⑥ (移送配管は、保護カバーで覆われている)

5 プラント関連パラメータ等確認

確認したデータについて、異常値は確認されなかった。